

# I 名古屋高速道路の現状

## 1 交通量等の現状

### (1)交通量

- ・令和元年度の平均交通量は、約33万9千台／日。
- ・消費税率引き上げ、新型コロナウイルス感染症、高速都心環状線のリフレッシュ工事の影響等により、対前年度比1.4%減。

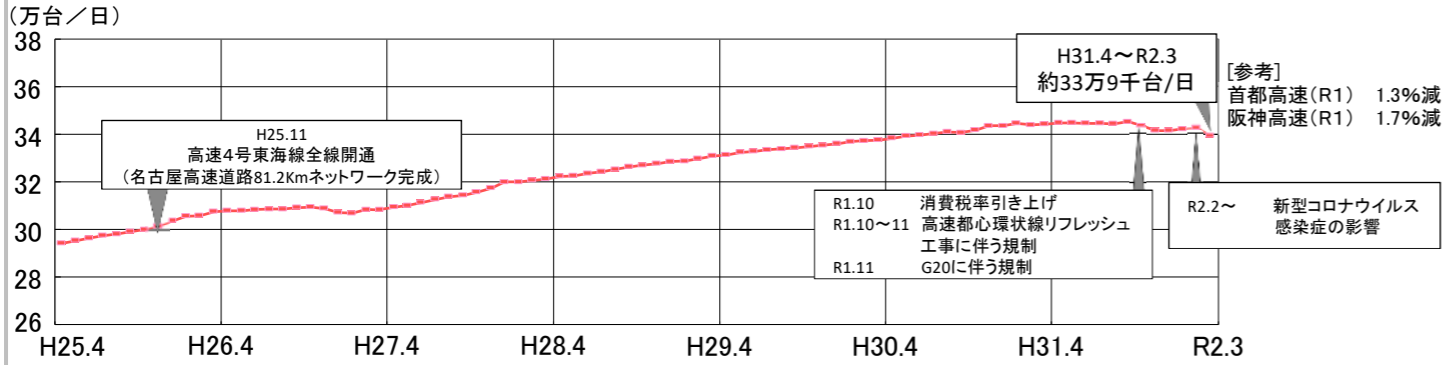


図1: 交通量の移動平均※1の推移 ※1 当該月を含む過去1年間の平均値

### (2)渋滞状況

- ・全線の平日平均渋滞量は、対前年度比16%増。
- ・高速11号小牧線は、名神高速道路耐震工事による国道41号終日車線規制の影響で一時的に増加。
- ・高速16号一宮線は、交通量の増加に伴い、渋滞が増加。
- ・高速都心環状線は、丸田町JCTにおける渋滞対策の効果がみられたが、依然として渋滞が顕著に残る状況。

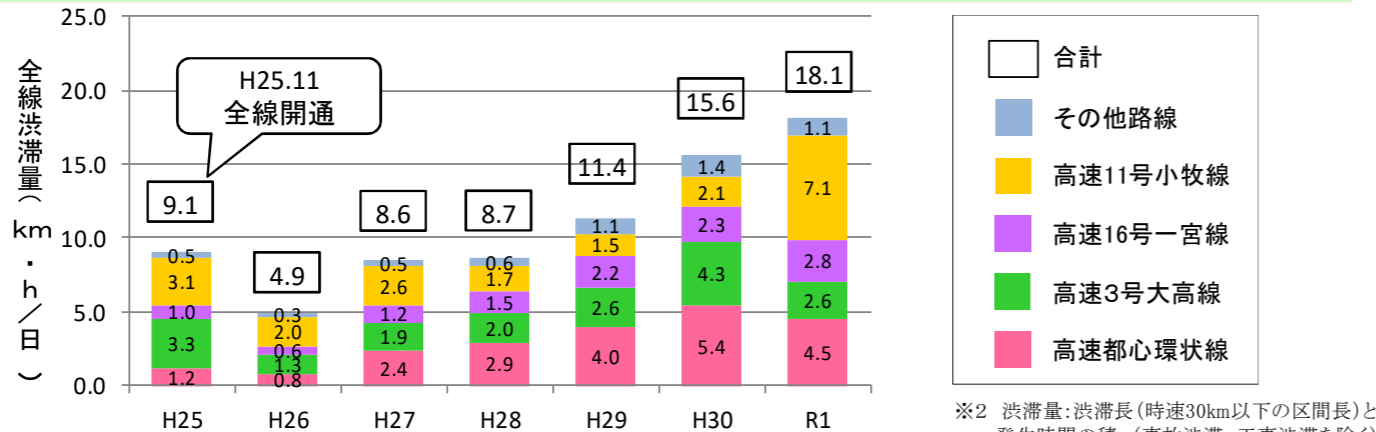


図2: 全線の平均渋滞量※2(平日)

※2 渋滞量: 渋滞長(時速30km以下の区間長)と発生時間の積(事故渋滞、工事渋滞を除く)

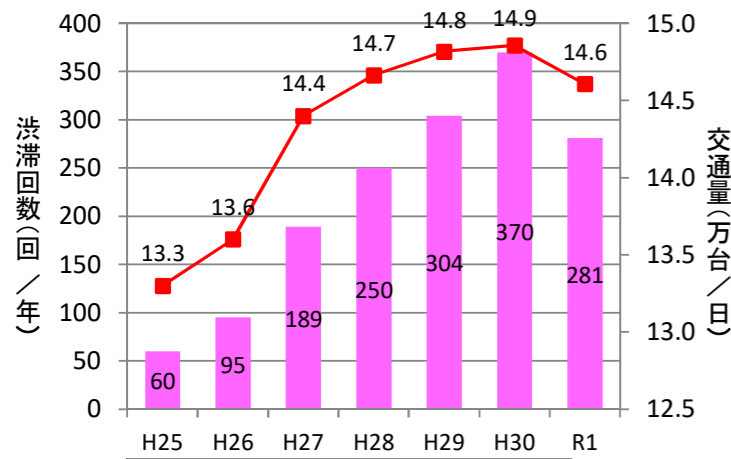


図3: 高速都心環状線の渋滞回数と交通量(平日)

※3 渋滞回数: 時速30km以下、1km以上の車列が30分以上継続した状態を1回とする。  
 ※4 交通量: 高速都心環状線入口及び放射路線からの流入交通量の合計



図4: 丸田町JCTの渋滞対策イメージ図(R1.11完了)

## 2 経営の現状(令和元年度決算)

### (1)収支状況

- ・道路料金収入は、交通量の減少により、対前年度比4億円(0.5%)減。
- ・道路管理費は、前年度から17億円増。大規模修繕、ETC関連機器の更新等を実施。
- ・借入金の返済(償還準備金繰入)は、収益・費用の状況により、対前年度比15億円減。

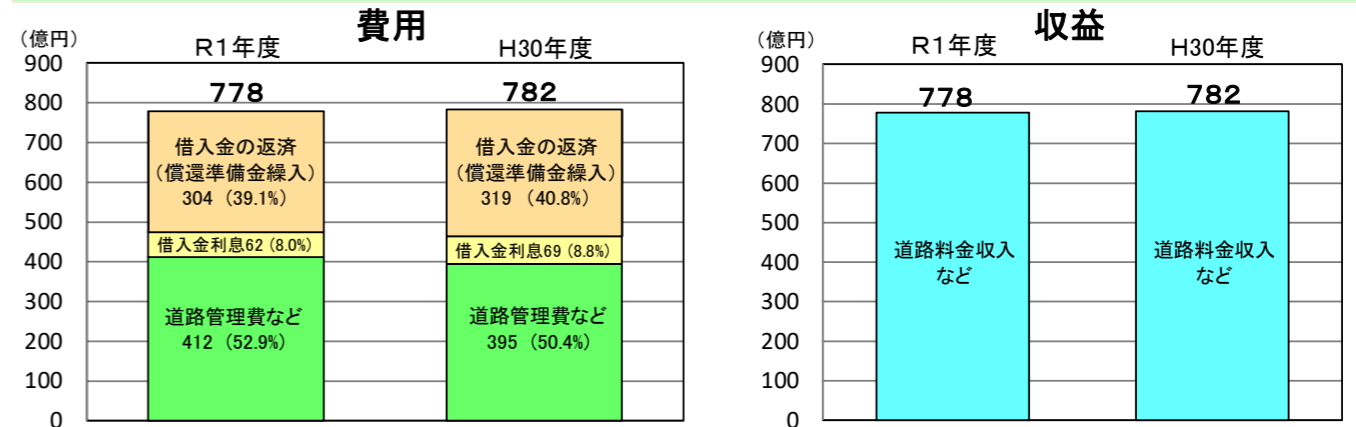


図5: 単年度収支状況 ※5 端数処理の関係上、計において合わないことがある。

### (2)償還状況

- ・令和元年度の償還準備金(借入金の返済に充てた償還準備金繰入の累計額)は7,157億円、償還率(償還対象額に対する償還準備金の比率)は対前年度比1.8ポイント向上し42.9%と、計画を上回る順調な償還を達成。

償還準備金: 7,157億円(6,853億円) ( )はH30年度決算値  
 償還率: 42.9% (41.1%)  
 R1年度計画( R2.3料金認可) 償還準備金: 7,078億円 償還率: 42.2%

## II 令和2年度予算の概要

- ・中期経営計画(2019-2021)に掲げた施策を着実に推進。
- ・都心アクセス関連事業を始め、総額1,184億円を計上。

	R2予算額 A(億円)	R1予算額 B(億円)	前年度比 A/B	備考
建設事業	計 14	5	2.80	
①名古屋西JCT建設工事	9	5	1.80	付属物等工事(高速5号万場線)
②都心アクセス関連事業	5	—	—	令和2年度の整備計画変更により、事業組み入れ予定
管理事業	計 1,169	1,355	0.86	
維持改良費	277	361	0.77	大規模修繕工事等
業務管理費	130	112	1.16	故障車・交通事故対応等
業務外支出	742	862	0.86	元金償還金、支払利息
一般管理費、予備費	19	20	0.95	人件費、物件費
受託事業費	1	+0	45.00	
合計	1,184	1,360	0.87	

※6 端数処理の関係上、計において合わないことがある。



図6: 建設事業実施箇所



### Ⅲ 中期経営計画(2019-2021)の進捗状況

- ・計画初年度の実績は、概ね目標を達成。
- ・計画初年度の実績を踏まえるとともに、計画策定後の社会情勢等の変化も考慮し、一部の施策において目標値の見直しや新規項目の追加を行う。

#### 1 主な施策の進捗状況

(各施策の進捗状況については、P.3~P.4参照)

#### 第1章 さらに使いやすい名古屋高速 ~元気な「名古屋都市圏」づくりへの貢献~

##### ○ 都心へのアクセスの向上 取組項目1(1)・(2)

- ・新洲崎JCT出入口設置及び黄金出入口フルIC化  
令和2年3月に都市計画変更が告示。4月に整備計画変更の道路管理者(愛知県・名古屋市)同意申請を提出した。年度内の整備計画変更許可及び事業認可取得に向けて取り組む。
- ・栄出入口、西渡り線、南渡り線の追加  
計画案の策定及び都市計画変更に向けた関係機関協議を名古屋市とともに進めてきた。早期の都市計画変更に向けて、引き続き、関係機関協議等に取り組む。

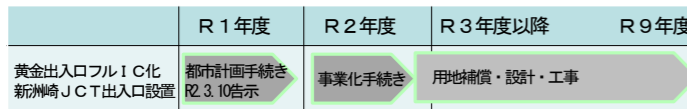


図7: 完成イメージ (新洲崎JCT出入口)



「名古屋駅周辺交通基盤整備方針」(H30.3名古屋市策定)に名古屋高速道路公社で一部加筆

##### ○ より利用しやすい料金 取組項目3(1)

- ・国土幹線道路部会(中京圏小委員会)の基本方針及び国の具体方針(案)を踏まえ、名古屋高速道路の新たな料金体系について、料金問題調査会<sup>※7</sup>への諮問・答申、パブリックコメントを経て、令和2年3月31日に国土交通大臣の認可を受けた。
- ・名古屋第二環状自動車道の開通に合わせた新たな料金体系への移行に向け、着実に準備を進める。

※7 名古屋高速道路の料金について調査審議することを目的に、学識経験者など第三者で構成される任意の諮問機関

#### (1) 主な変更内容

- ① 対距離制の導入
  - ・現在の均一料金から、走行距離に応じた料金(対距離料金)に変更
  - ・現在の料金圏(名古屋線、尾北線)は廃止
- ② 車種区分の変更
  - ・現在の2車種区分(普通車、大型車)から、5車種区分(軽・二輪、普通車、中型車、大型車、特大車)に変更

#### [ 現行均一料金 ]

車種区分	料金額
普通車	名古屋線：780円 尾北線：370円
大型車	名古屋線：1,570円 尾北線：730円

#### [ 新料金 ]

車種区分	料金額(注)
軽・二輪	290円 ~ 1,110円
普通車	290円 ~ 1,320円
中型車	290円 ~ 1,530円
大型車	300円 ~ 2,010円
特大車	310円 ~ 3,160円

(注) ETC車の料金  
非ETC車は、原則として入口から利用できる最大距離の料金

- ③ 割引の見直し
  - [新規] ETC都心環状割引
  - [継続] 名高速ETCコーポレートカード割引、ETC夜間割引(中型車以上)
  - [廃止] ETC端末特定区間割引、ETC日曜・祝日割引、ETCマイレージサービス

- ④ 経路によらない同一料金の導入
  - ・東海環状自動車道、名古屋第二環状自動車道の利用や名古屋都心部への分散流入に関して、料金面で不利にならないよう、経路によらず、起終点間の最短距離を基本に料金を決定

#### (2) 今後の取り組み

- ・料金に大きな変化が生じるため、お客様への十分な周知・広報に努める。また、ETCの普及促進、道路交通情報提供の充実を図る。

### 第2章 さらに確かな名古屋高速 ~安全・安心の徹底~

#### ○ リフレッシュ工事の実施 取組項目3(5)

- ・高速都心環状線(明道町JCT→鶴舞南JCT)において、令和元年10月及び11月に通行止めにより舗装等の修繕工事を実施。
- ・令和2年度は、高速都心環状線(鶴舞南JCT→明道町JCT)において、関係機関と協議の上、11月上旬頃(予定)に舗装等の修繕工事を実施。

#### 【令和元年度の工事状況】

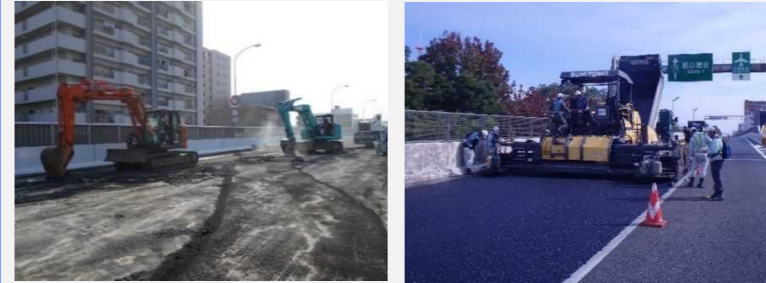


図8: 舗装撤去の状況

図9: アスファルト舗設の状況



図10: 令和2年度の工事区間

### 第3章 さらに走りやすい名古屋高速 ~快適さとサービスの向上~

#### ○ 都心環状線の渋滞対策 取組項目1(1)

- ・丸田町JCTにおいて、高速2号東山線と高速都心環状線の合流部のゼブラ帯を撤去し、4車線運用区間の延長を行うことで交通容量の増加を図り、改善がみられた。(P.1 図4参照)
- ・対策箇所の効果検証を進め、追加対策の必要性について検討を行う。

### 第4章 社会的責任の遂行

#### ○ 環境保全への取り組み 取組項目2(1)・(2)

- ・高速1号楠線、高速3号大高線、高速5号万場線において、道路照明のLED化を図り、目標のLED化率を達成した。これにより電気使用量を約13%削減<sup>※8</sup>。
- ・引き続きLED化工事を進めるとともに、エコドライブ啓発活動を実施し、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組む。

※8 道路照明LED化工事開始前のH29年度比

### 第5章 経営基盤の強化

#### ○ 戦略的な資金調達 取組項目1(6)

- ・市場公募債の発行に当たり、目標を上回る55件の個別投資家訪問を実施し、発行した全ての年限で史上最低利率を達成。
- ・金融機関からの借入について、ESG評価型融資<sup>※9</sup>を導入した。市場公募債についてもESGを重視した債券発行について検討を進める。

※9 従来の財務情報だけでなく、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)への取り組みで評価し、結果が一定以上の企業が対象となる融資

### 2 計画の一部見直し (見直し内容の詳細については、P.3~P.4参照)

1. 初年度に既に当初の目標値を大きく上回って達成した施策については、より高い目標を設定する。
  - ・更なる交通安全対策の実施(P.3) **目標2** 総事故件数
  - ・お客様満足度の向上(P.3) **目標19** 総合満足度(お客様満足度調査による5段階評価の点数)
2. 適切な指標の設定が可能となった施策については、新たに具体的な数値目標を設定する。
  - ・取り締まりの強化(P.3) **目標8-2** 愛知県警高速道路警察隊との合同取り締まり回数
3. 社会情勢等の変化により、既存の施策に付加して新たにに取り組む必要が生じた事項については、計画本文に追加記載する。
  - ・新型インフルエンザ等発生時の危機管理(P.3)
  - ・新たな働き方への取り組み(P.4)



# 中期経営計画（2019-2021）施策一覧

〔2019(R1)年度の進捗・達成状況及び計画の一部見直し〕

第1章 さらに使いやすい名古屋高速 ～元気な「名古屋都市圏」づくりへの貢献～						
取組項目	目標 (取組内容)	2019(R1)		2020(R2)	2021(R3)	
		目標	実績	目標	目標	
1 都心へのアクセスの向上	(1) <u>都心へのアクセス向上の取組み</u>	名古屋駅周辺交通基盤整備方針に示された出入口等の追加・改良等の事業化	-	黄金・新洲崎の都市計画変更	-	-
	(2) <u>高速道路ネットワークの更なる充実</u>	「南渡り線」の事業化に向けた検討及び関係機関等の協議・調整	-	「南渡り線」の公表と計画案の検討	-	-
2 ネットワーク機能の発揮	(1) <u>名古屋西JCT建設工事の着実な推進</u>	目標1 名古屋西JCT整備完了	工事	工事	完了	-
3 より利用しやすい料金	(1) <u>新たな料金体系への取組みの推進</u>	お客様がより利用しやすい料金体系の実現	-	料金認可	-	-

第2章 さらに確かな名古屋高速 ～安全・安心の徹底～						
取組項目	目標 (取組内容)	2019(R1)		2020(R2)	2021(R3)	
		目標	実績	目標	目標	
1 更なる交通安全対策の実施	(1) <u>交通安全対策の継続的な実施</u>	目標2 総事故件数	920件	887件	910件 887件	900件 880件
		目標3 死傷事故率	5.7件/億台キロ	6.7件/億台キロ	5.7件/億台キロ	5.6件/億台キロ
		※死傷事故率：1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数を表す指標				
2 大規模修繕の着実な推進	(1) <u>大規模修繕計画に基づく事業の推進</u>	目標5 大規模修繕完了延長	35%	38%	45% (累計)	60% (累計)
		※大規模修繕完了延長：大規模修繕対象箇所(37.9km)のうち、床版下面からの修繕が完了した供用延長の割合				
3 維持管理の高度化・効率化と着実な点検・補修	(1) <u>新技術を活用した維持管理の高度化・効率化</u>	目標6 ICT等の活用による道路構造物の維持管理の高度化と効率化	-	3次元点群データ及び広視野角カメラによる映像の取得	-	-
	(2) <u>着実な点検の実施と点検の精度向上</u>	目標7 橋梁の点検率	18%	18%	42% (累計)	54% (累計)
	(3) <u>計画的な維持補修工事の実施</u>	目標8 道路構造物保全率	90%	96%	90%	90%
		※道路構造物保全率：早期に補修を必要としない橋梁数(径間数)の割合(大規模修繕対象路線を除く)				
	(4) <u>快適な走行を提供する舗装の補修</u>	目標9 快適走行路面率	97%	99%	97%	97%
	※快適走行路面率：舗装路面延長のうち、高速走行でも快適で安定した走行が可能となる舗装路面が占める割合					
4 道法違反車両に対する取締・指導の強化	(1) <u>取り締まりの強化</u>	目標8-2 愛知県警高速道路交通警察隊との合同取り締まり回数	-	重点的な取り締まり及び機器による常時取り締まりの実施	6回	6回
	5 南海トラフ地震を始めとした自然災害への対応力向上	(1) <u>災害時の業務継続に向けた防災拠点整備の推進</u>	目標9 受変電施設の津波浸水対策完了(短期)	工事	対策完了	工事
		目標10 整備部社屋の改修	工事	工事	改修完了	-
		目標11 防災拠点の電源確保	工事	工事発注	工事	供用開始
(2) <u>実践的な訓練による災害対応力の向上</u>		目標12 各種訓練の実施	実施	実施	実施	実施

赤色下線部：P.2「Ⅲ 中期経営計画(2019-2021)の進捗状況」参照

表中の朱書き部分が、計画の一部見直し箇所

第3章 さらに走りやすい名古屋高速 ～快適さとサービスの向上～						
取組項目	目標 (取組内容)	2019(R1)		2020(R2)	2021(R3)	
		目標	実績	目標	目標	
1 継続的な渋滞対策の推進	(1) <u>都心環状線の渋滞対策</u>	目標13 都心環状線の渋滞損失時間	(対策立案)	(対策立案)	19.5万台・時	
		■丸田町JCT：対策実施及び効果確認 ■明道町JCT：経過観察 ■錦橋出口：実検証中 ■黄金出口：対策実施及び効果検証				
2 交通事故・工事に伴う渋滞の削減	(1) <u>交通事故処理に伴う渋滞時間の短縮</u>	目標14 交通事故処理に伴う渋滞時間	68分以内/件	68分以内/件	68分以内/件	68分以内/件
	(2) <u>工事に伴う渋滞の発生及び影響の軽減</u>	目標15 工事に伴う渋滞時間	40時間/年	35時間/年	40時間/年	40時間/年
3 雪氷対策の強化	(1) <u>降雪・積雪時等の通行確保の強化</u>	監視体制強化による雪氷作業への迅速な対応及び早期の入口閉鎖等	-	関係機関調整	-	-
	(2) <u>雪氷作業の効率化</u>	目標16 雪氷作業の効率化の推進	実施	実施	実施	実施
4 道路交通情報提供の充実	(1) <u>道路情報板の視認性向上</u>	目標17 道路情報板の大型マルチカラー化	33%	33%	43% (累計)	53% (累計)
	(2) <u>ETC2.0の普及促進</u>	目標18 ETC2.0利用率	19%	19%	22% (累計)	25% (累計)
5 お客様とのコミュニケーションの推進	(1) <u>お客様の声の反映</u>	お客様ニーズに基づいたサービスの充実と改善	-	改善実施	-	-
	(2) <u>お問い合わせへの的確な対応</u>	お客様センター等におけるより速やかで適切な応答	-	適切な応答実施	-	-
	(3) <u>料金所サービスの向上</u>	お客様への接遇の向上と迅速で正確な料金収受の確保	-	料金所巡回調査の実施	-	-
	(4) <u>お客様満足度の向上</u>	目標19 総合満足度 (お客様満足度調査による5段階評価の点数)	3.60以上	3.71	3.60以上 3.80以上	3.60以上 3.80以上
6 自動運転への対応	(1) <u>自動運転の実用化・普及への適切な対応</u>	自動運転の技術開発に関する調査研究・協力	-	あいち自動運転推進コンソーシアムへの参画	-	-

## 第2章 ※朱書き下線部分が、新規取組項目

### 5 南海トラフ地震を始めとした自然災害への対応力向上

#### (1) 災害時の業務継続に向けた防災拠点整備の推進 継続

業務継続計画（BCP）遂行への備えとして、受変電施設の津波浸水対策・整備部社屋の改修（防災機能の強化等）・防災拠点の電源確保といった対応項目について、継続的に取り組めます。また、新型インフルエンザ等発生時の備えについても継続的に取り組めます。

赤色下線部: P. 2 「Ⅲ 中期経営計画(2019-2021)の進捗状況」参照

表中の朱書き部分が計画の一部見直し箇所

第4章 社会的責任の遂行						
取組項目	目標 (取組内容)	2019 (R1)		2020 (R2)	2021 (R3)	
		目標	実績	目標	目標	
1 工事の品質確保と安全管理	(1) 施工プロセスの着実な実施	—	実施	—	—	
	(2) 品質確保に向けた契約制度の改善	目標20 入札参加資格の見直し、低入札時の対応強化実施	検討	低入札時の対応強化実施	〔入札参加資格の見直しについて制度化・周知〕	実施
	(3) 工事事務防止に向けた安全管理の推進	各種安全パトロールの計画的な実施及び安全管理アドバイザー会議等の実施	—	実施	—	—
2 環境保全への取り組み	(1) 道路照明LED化の推進	目標21 道路照明LED化	19%	19%	30% (累計)	39% (累計)
	(2) エコドライブ啓発活動の実施	”環境にやさしい”名古屋高速道路の積極的な利用及びやさしく静かな運転の心がけ等の呼びかけ	—	啓発活動の実施	—	—
3 事業運営の信頼性向上	(1) コンプライアンス等の徹底	目標22 コンプライアンス等に関する意識度	100%	100%	100%	100%
	(2) 情報セキュリティ対策の強化	目標23 情報セキュリティに関する意識度	100%	100%	100%	100%
4 地域社会との共生	(1) 自治体や大学等への技術提供・情報発信	社会基盤整備の役割や重要性、技術者としての心構えなどの伝承	—	大学での講義等の実施	—	—
	(2) ネックス・プラザを活用した地域社会との交流	目標24 ネックス・プラザ利用団体数	130団体以上	218団体	130団体以上	130団体以上
5 積極的な情報発信	(1) 多様な媒体による情報発信	ホームページ・SNS・ラジオ等の媒体を効果的に用いた、名古屋高速に関する様々な情報の提供	—	各種広報活動の実施	—	—
	(2) 設立50周年記念事業の実施	目標25 50周年史の発行	資料収集及び編さん作業	資料収集及び編さん作業	資料収集及び編さん作業	発刊

第5章 経営基盤の強化						
取組項目	目標 (取組内容)	2019 (R1)		2020 (R2)	2021 (R3)	
		目標	実績	目標	目標	
1 ～財務基盤強化・経営合理化～  コスト削減・効率化と戦略的な資金調達	(1) 予防保全等による構造物の長寿命化	ライフサイクルコスト低減による大規模修繕等の着実な実施及び技術基準の見直し	(再掲)			
	(2) 効率的な維持管理	新技術の積極的な活用による維持管理コスト増大抑制のための効率的な維持管理の実施	(再掲)			
	(3) 工事関係書類等の削減	目標26 工事関係書類等の削減の実施	調査	調査	調査	実施
	(4) 積算業務の効率化	主要資材の適正単価の採用、積算基準の見直し/新積算システムの構築	—	実施/構築作業	—	—
	(5) 光熱費の削減	道路照明及び整備部社屋改修に合わせた事務所照明のLED化による消費電力量の削減	(再掲)			
	(6) 戦略的な資金調達	目標27 個別投資家訪問数	50件以上	55件	50件以上	50件以上
2 ～組織基盤強化～ 職員と組織の能力発揮	(1) 職員の人材育成及び技術力等の向上	目標28 公社業務に関連した資格取得者数	5名以上	6名	10名以上 (累計)	15名以上 (累計)
	(2) プロジェクトの推進を図るための組織づくり	重点的な人員配置及び能動的・効率的な組織づくり	—	実施	—	—
	(3) ワークライフバランスの推進	目標29 年次休暇の平均取得日数	13日	12.4日	14日	14日
3 ～事業推進基盤強化～ 確実な事業推進	(1) 重要施策間の連携強化	事業間調整会議による工程等の共有及び一体的な調整・課題解決	—	事業の推進	—	—

第5章 ※朱書き下線部分が、新規取組項目

～組織基盤強化～

2 職員と組織の能力発揮

(3) ワークライフバランスの推進 新規

仕事と生活の調和を図り、職員の心身の健康保持や業務能率を向上させるため、休暇の計画的な取得促進を図る取組みを実施します。併せて、事務スペースのフリーアドレス化などにより、新たな働き方への取組みを進めます。

また、育児支援制度の周知徹底を行い、全職員の理解を深めることにより、職員の出産・育児に係る休暇等の取得をサポートしていきます。